

特集

いま、農協はどうなっているのか？ ～協同組合としてのJAに学ぶ

農協はかつて政権の最大の応援団のひとつであり、両者は持ちつ持たれつの関係にあった。端的に言えば、農地改革で小規模な自作農となった人々が農協に結集し、政府を応援することで補助金を得ていたのである。しかしそうした政策は、長期的には破綻する。現政権はこれまでの政策を180度転換し、競争的な産業としての農業の確立を目指し、同時に小規模な農家と彼らが支える農協を切り捨てようとしているかのようである。規制改革会議に代表される農協批判は、かつてなく激しく、厳しい。そしてそれを応援し、快哉を叫ぶメディアや世論があることもまた事実である。

協同組合として、農協に問題があることは事実だろう。しかし同じように、協同組合として、農協の事業と運動には他の協同組合でさえ見習い、学ぶべき点が

多々あるように思われる。「産直牛乳」をめぐって、生協とともに農協は何を成し遂げてきたのか。「酪農」によって地域の社会と経済を守ろうと、先進的な農協はいかに奮闘しているのか。生協と同じく購買事業に取り組む「Aコープ」が打ち出した新たな方向性はどんなものか。農協批判にさらされる中で、農協はどのようにして協同組合としての「理念教育」を進めようというのか。農業振興のみならず農村の文化的で健康的な生活をめざす「文化連」とはどのような組織なのか。農家以外の人々を農協に受け入れる「准組合員」制度の課題と可能性は何か。

同じ協同組合であるにもかかわらず、消費者の協同組合とはまた違った環境におかれ、異なる使命を課せられた農業生産者による協同組合の多様な側面を理解するために、本特集をお送りする。

(本誌編集長 杉本貴志)

1. 地域と地域を結ぶ協同組合間協同～牛乳の流通と「生協牛乳」の誕生 (下門 直人)
2. 地域一体となって組合員のレベルアップを図る協同組合
～JA浜中町の「エコ牛乳」を訪ねて (杉本 貴志)
3. 地域の生活インフラとしての農協の役割
～Aコープとファミリーマートの一体型店舗を事例として (加賀美 太記)
4. 農協職員を対象とする理念教育の現状と課題 (藤井 晶啓)
5. 日本文化厚生農業協同組合連合会の組織と事業 (小磯 明)
6. 農協の准組合員問題～その歴史と構図 (増田 佳昭)